

# CS だより

日本キリスト教団逗子教会  
 牧師 小宮山剛  
 校長 渡辺 信

## 聖書のことば

### 『求めなさい、そうすれば与えられる』マタイによる福音書7章7節

私たちは自分が必要と思うことを願って祈ります。健康でありますように、〇〇が手に入るように、いやな思いをしませんように…。しかし、実際には必ずしもそれが与えられるわけではありません。イエスのことばは嘘なのでしょうか？違います。そのあとでこういうことばが続きます。「天の父は、求める者に良いものをくださるにちがいない」。与えられなかったと思っても、あとで気づけば与えられていたり、願ったものが手に入らない方が本当はよかった、ということにあとで気づくこともあるでしょう。神さまは真剣に求めるならば必ず私たちにとって最高のものを与えてくれるのです。（『イエスのことば100』より）

紫陽花の美しい季節ですが、いかがお過ごしですか？学校も再開し、少しずつ落ち着いた生活を取り戻しているのでしょうか。ようやく入園式・入学式が行われ、新しい生活が始まったばかりというお友だちもいることと思います。一人一人に神様のお守りがありますよう、祈っています。

6月のCSは、礼拝堂で、CSの皆さんと一緒に礼拝を捧げることができ、とても感謝です。7月も、礼拝堂での合同礼拝とYouTubeのライブ配信で、みなさんと一緒に礼拝を捧げたいと思います。是非、参加してください。

## 6月21日の説教から 『神さまが願っておられること（すべての人のための福音）』

新約聖書：使徒言行録10章34～35節

こどもさんびか：7『イエスさまきょうもわたしを』



今日、読んだ聖書の箇所は、イエス様の弟子ペトロが、カイサリア（地図参照）という所の、コルネリウスという人の家で語ったことばの一部です。どうしてペトロがこの人の家に来たのかということからお話したいと思います。このコルネリウスという人は、ローマの百人隊長で、神さまを信じる信仰の厚い人でした。ある日、コルネリウスのところに天使が現れて、「ヤッファ（地図参照）へ人を送って、ペトロという人を招きなさい。その人は、皮なめし職人のシモンという人の客になっている。その家は海岸にある」と言いました。コルネリウスは、畏れ、驚きながらも、天使に言われた通り、部下と召使をヤッファに送りました。

ちょうどその人たちがヤッファに近づいたころ、ペトロは祈るために屋上に上がりました。昼の12時頃で、とてもお腹がすいたなあと思いました。その時、天が開けて、大きな布のようなものがつるされて降りてきました。その中には、獣・爬虫類・鳥が入っていました。そして、天から声が聞こえました。「ペトロよ、それを屠（ほふ）って食べなさい」ペトロは、「主よ、とんでもありません。清くない物、汚れた物は、食べたことはありません。」旧約聖書の律法の中に、汚れた動物・生物を食べてはならないと

いうおきてがあり、ペトロはそれを忠実に守っていました。でも、更に天から声があり、「神が清めた物を、清くないなどと言ってはならない」と。これが3回繰り返され、布は天に引き上げられました。ペトロが、今見たのは、いったいどういうことだろう、と思案に暮れていると、そこへ、コルネリウスからの使いが到着しました。その使いの話を聞き、ペトロは、さっき見た幻の意味がわかりました。それまで守ってきた律法によれば、神さまの救いは、ユダヤ人のためだけのものでした。それが、今や、ユダヤ人であろうが、ローマ人であろうが、日本人であろうが、イエス・キリストを信じることによって救われるということが示されたのでした。ペトロは、使いの人たちと一緒にコルネリウスの家に行き、さっきのことば、「神は人を分け隔てなさらないことが、よくわかりました」と、話し始めました。そして、コルネリウスの家に集まっていた人たちに、「イエス・キリストは、全ての人の王です」「この方を信じる人は誰でも罪の赦しが受けられます」と話しました。ユダヤ人から見たら異邦人といわれる人々も、この時イエス・キリストを信じ、洗礼を受けることができました。こうやって、神さまの福音は、世界中に広がっていったのでした。今日の出来事は、聖霊のはたらきです。コルネリウスに、ペトロを招くようにさせたのも、ペトロが幻を見て、神さまが、全ての人を救いたいと思っておられることを知ったのも、ペトロがすぐにコルネリウスの家へ行き、多くの人に福音を伝えたのも……。

先週のお話しで、目が見えなくなったパウロがイエス・キリストを信じるようになり、多くの人々に、イエス様のことを伝える働きをしたことも、先々週のお話しで、フィリポが、エチオピアの高官と出会い、聖書の解きあかしをしたのも、聖霊の働きでした。

聖霊は、今も、私たちのそばにいて導いてくださっています。私は、コロナの影響で、家にいる時間が少し増え、前よりも聖書を読む時間が増えました。そして、今までの経験を思い起こし、あの時も、この時も、聖霊が導いてくださったな、と感謝しています。

神様は、すべての人が、イエス・キリストを信じ、救われることを願い、聖霊を通して私たちに働きかけてくださっています。みなさんがそのことに気づき、イエス・キリストを信じることができるよう、祈っています。

お祈り

神様、今日も私たちをここに呼んでくださり、礼拝を捧げることができることを感謝します。神様が、私たちを救うために、イエス様を送ってください、今も、聖霊の働きによって導いてくださっていることを感謝します。CSのお友だちが、神様を信じて歩いていけますように、心と体の健康が守られますように。

このお祈りを、イエス様のお名前を通してお祈りします。アーメン

<久保島郁子>



## 6月28日の説教から 『伝道旅行への出発』

本日の聖書では、いよいよ教会がユダヤの国以外の世界に向かって、イエス様とキリスト教を伝える事を始めるため、バルナバさんとサウロさんが伝道旅行に出発します。

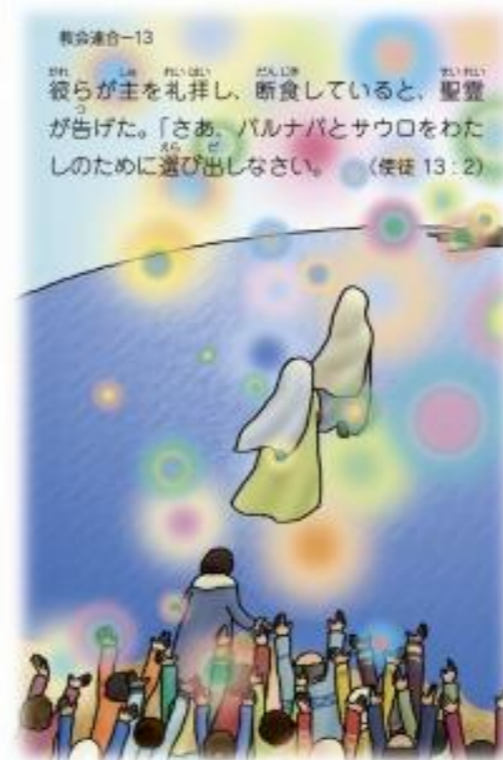
バルナバさんは、最初の教会が始まった時に、教会と教会に集まる人たちのために、自分の持っている畑を売って教会にささげ、「立派な人物で聖霊と信仰に満ちていた」と聖書に書かれています。

そして、サウロさんは先週のお話であったように、とっても熱心なユダヤ教の信者だったので、最初キリスト教と、キリスト教会をはげしく迫害していました。だから本来なら、神の罰を受けて滅ぼされて当然の人でした。しかしそんな彼のところに、イエス様があらわれ、彼を赦し、キリストの弟子とされました。

二人とも神様のご計画によりアンティオケアの教会に遣わされ大事な役割を担いました。

特にサウロさんは回心したあと、バルナバさん取り成しによってキリスト教の指導者として育ち、アンティオケア教会の中で、大きな影響力を持つ指導的役割を担っていました。

逗子教会もそうですが、教会はたくさんの人の協力によって成り立っています。今行っているこのCS礼拝も、たくさんのスタッフによって支えられています。



アンティオケアの教会もまだ歴史が浅く、バルナバさんとサウロさんを含めみんなの奉仕で成り立っていたと思います。そこへ突然聖霊が現れ、バルナバさんとサウロさんを伝道旅行へと派遣すると伝えます。

大きな役割を持っていた二人を教会から解き放って、新しい任務に就かせることは教会にとっても大きなマイナスであったはずですが、アンテオケ教会の人々は聖霊に従い、いまだ福音の伝えられていない地に福音を伝えるという明確な目的を持って二人を送り出します。

二人にとっても、行ったこともない外国に行き、知らない人たちにお話しをするのはとても難しい仕事です。でも、パウロとバルナバは喜んで神様に従おうと思いました。

聖霊によって導かれ、ユダヤの国以外の世界に向かって送り出されたパウロさんとバルナバさんは、地中海沿岸の地域へ、伝道旅行に出かけます。これは、ユダヤ以外の外国に対して、大々的なキリスト教を伝える事の始まりとなりました。来週

から、各地でパウロさんやバルナバさんの働きにより、イエス様が本当の救い主であることを各地で伝えるお話となります。ぜひ一緒に礼拝を守りたいと思います。

お祈り

神様は、今日も、私達と共におられ、私達がどんなに苦しい時、辛い時でも希望を持って生きることができるよう導いて下さることを感謝します。主の御名によって祈ります。アーメン

<渡辺 信>

## 夏のおたのしみ会のお知らせ

日時: 8月1日(土) 9:30~11:30

場所: 逗子教会

こひつじクラスからナイドクラス(高校生)まで、すべてのCSのお友だちが集まって、楽しい時間を過ごしましょう

(新型コロナウイルスの状況によっては、中止になることもあります)

[\\* 逗子教会 CS についてのお問い合わせはこちらどうぞ！](#)

電話: 046-873-8724 ファックス: 046-854-7712 メール: [cs@zushikyokai.holy.jp](mailto:cs@zushikyokai.holy.jp)